

## 会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回富士見市社会教育委員会議
開催日時	令和5年4月10日（月）午後7時00分～8時30分
開催場所	中央図書館 視聴覚ホール
出席者	古澤立巳議長、佐々木眞理子副議長、荒川照子委員、京谷恵子委員、吉田徹子委員、渡邊知広委員、吉田和江委員、内海幸一郎委員、事務局
欠席者	蘇武伸吾委員、富士伸委員
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議次第	1 議長あいさつ 2 生涯学習課より報告 3 協議事項 4 その他
会議資料	・定期刊行物 ・資料1「提言書（案）」
会議録確認	古澤立巳議長

## 会議内容

### 1 議長あいさつ

【議長】 第33期の会議も、今日を入れてあと2回となった。みなさんのご協力のお陰で、難しいテーマではあったが、提言書という形にまとめることができた。今日の会議で頭から通して確認していただき、5月の定例会にて確定版をご確認いただければと考えている。

### 2 生涯学習課からの報告

【事務局】 担当職員の報告。

### 3 協議事項

【議長】 「1 はじめに」から「5 具体的な取組の提案」まで、一つずつ確認していきたい。気になる点等あったらご指摘いただき、修正していききたい。どのような事でも構わないので、何かあればご意見をいただければ。では、「1 はじめに」の部分について確認したい。

【事務局】 ここは、いわゆる問題提起の部分になる。

【議長】 「世代をこえたつながりづくり」という、今期のテーマを設定した理由にも関係してくる部分。特にご意見等なければ「2 富士見市の現状」に移る。今回のテーマを研究するにあたり、社会教育委員会議会で改めて調査等は行わなかったが、市が行ったアンケートを利用させてもらった。それを掲載している。また最後の「人と人とのつながりの中でこそ～」から始まる8行は、社会教育委員会議としての考えを述べている。

【委員】 最後の「この2点」が分かりにくいかもしれない。「～こと。」と記述されているので分かることは分かるが、もう少し分かりやすい表現にできないか。例えばここで指す「2点」をカッコで括ったり、文頭に持ってきたり、目立たせることができれば分かりやすいかもしれない。

【議長】 では次に「3 『つながり』の大切さについて」を確認していく。

【事務局】 「3-1 3つの観点から見る『つながり』の必要性」については、前回から大きな変更はない。

【委員】 「① 自己成長の観点から」の最後の行の「レジリエンス」という単語について、この用語でいいか確認したい。「レジリエンス」という単語の意味を当然理解している読者だと想定してこのままの用語でいくか、日本語にするか。この言葉のニュアンスとして、固く頑丈なものではなく、しなやかに受けとめ流すことができる、というような意味が含まれている。

【委員】 「順応性」などはどうか。

【委員】 1語で表そうとしなくてもいいかもしれない。「受容性」などの単語とよにかを組み合わせる方法もある。

- 【議長】 「レジリエンス」の言い換えについては次回までの課題として、次回までに委員各位考えてきてもらえれば。他にお気づきの点等あるか。
- 【委員】 「③ 『居場所づくり』という観点から」の最初の文について、「あらゆる立場の人にとって」という表現に違和感を覚える。文意をどう捉えてよいか分かりにくい。「あらゆる立場」と表現する意図が読みにくい。
- 【委員】 「立場」とわざわざ表現する意図がないのであれば、「すべての人」という表現でいいのではないか。
- 【議長】 文末についても、「幸せです」だとかなり強い印象を受けるので、もう少し表現を柔らかくしてもいいかもしれない。
- 【事務局】 「立場」を使っていることに特別な意図はない。ご指摘の通り修正したい。
- 【議長】 では次に「3-2 世代をこえる重要性」を確認したい。ここについては、前回会議で委員からご指摘をいただいた部分であり、文章をつくりかえた部分。「① 『世代間ギャップ』を認め合う」という見出しと内容について、変更を加えている。この部分について特に確認していただきたい。「世代間ギャップ」を埋めるのではなく、認め合い、受け入れ合うことが必要だという意味合いになるよう文章を作成した。各委員から感想でも構わないので意見を伺いたい。
- 【委員】 パソコンに苦手意識を持っていて、コロナの影響により普及し始めたオンライン会議についても、私にはできないと思っていた。しかし実際に参加してみたら、やり方など丁寧に説明していただき、参加することができた。私が80代、90代になる頃には、もしかしたらオンラインを活用した安否確認が主流になるかもしれない。苦手意識を持たず、教わる姿勢で色々なことに参加しなければいけないと思った。
- 【委員】 下から3行目、「共有し合う環境」という言葉があるが、「1 はじめに」の下から4行目に「活動できる場」という言葉がある。全く同じ意味を表している訳ではないと理解しているが、ここはあえて表現を変えたのか、もしくは表現が揺らいだのか、確認したい。また、上から3行目に「当然」という言葉が2回出てくる。このままでも問題ないとは思いますが、表現としてかなり強い印象を読者に与える。ここの表現方法について確認しておきたい。
- 【議長】 ここの「当然」はなくてもいいように感じる。
- 【事務局】 「環境」と「活動の場」については、敢えて使い分けたわけではなく、表現が揺らいだもの。
- 【委員】 上から3行目「価値観の相違」について、表現としてやや硬く感じる。「考え方の違い」という表現でいいのではないか。
- 【委員】 上から3行目から4行目にかけて、同世代間と異世代間を比較している文章だと思うが、「同世代の中でより、異世代間においての方が～」という文章には違和感がある。比較であるならば、「同世代間でよりも、異世代間においての方が～」というような文章がいいのではないか。
- 【委員】 ここは比較と言えるのだろうか。私もこの「～の中でより、～」という表現に違和感を覚えた。考え方の相違は当然存在するが、それは異世代間においては理解し合うことが難しい、という程度で、わざわざ同世代

間と比べなくてもいいのではないか。同世代の中であっても理解できないことはあると思うし、わざわざ同世代間と異世代間を比べる必要はないのではないか。異世代間においては理解し合うことが難しいということのみ伝わればよいのではないか。

【委員】 確認したい。2行目後半「しかし～」以降の文章では、社会背景等の違いによって、考え方の違いが存在するという事。そして、それは同世代間同士よりも、異世代間においての方が、違いが大きいということを行っているということによいか。そうであれば、同世代間でよりも、異世代間の方が、と文言を入れた方が分かりやすいのではないか。「同世代間」「異世代間」と語句を統一するか。

【事務局】 ここについては、この提言書において、ただの「つながり」とせず、「世代をこえたつながり」とする意義を説明しようとした部分になる。これまでの協議から、今回の提言書のテーマを「世代をこえたつながりづくり」とした理由は、世代が違えばこそ、様々な考え方の人が集まり、より多くの気付きを得ることができるからであると認識している。もちろん同世代間でのつながりも重要だが、あえて世代をこえたつながりを取り上げるのは、ここでは「世代間ギャップ」と表現したが、この「世代間ギャップ」が大きければ大きいほど、気付き得るものも大きいからである。この認識で間違いないのであれば、あえて「世代をこえた」つながりづくりを取り上げた理由が伝わるような文章の方が、分かりやすいのではないかと考えている。

【委員】 最初の「世代をこえた人々が集い、」という文章はない方が分かりやすいかもしれない。

【事務局】 修正する。また委員からご指摘のあった、下から3行目の「共有し合う環境」と、「1 はじめに」下から4行目の「活動できる場」について、あえて表現を変えているのか、表現の揺らぎなのか、というご指摘があった。事務局としてはこの2つの表現をあえて使い分けた訳ではない。どちらかに表現を統一したほうがよいか。

【議長】 では「環境」という語を、「場」に変更することとする。「② 未来に向けた『つながり』のため」と「3-3 富士見市生涯学習推進基本計画から」については、前回お示ししたものと大きな変更はないため、次に進みたい。「4 『様々な世代を包む、ゆるやかな関係づくり』」について、前回までは3つの項目に分けていたが、今回から5つの項目分けへと変更している。

【事務局】 3つの項目立てとすると一つひとつの文章が長くなってしまい、分かりにくくなっていたので、内容を整理し5つに再編成した。

【委員】 「① 諸活動への積極的な支援」について、見出しと内容が合っていないように感じる。読んだ時の印象として、広報活動をしていきましょう、ということが言いたいのかなと感じた。見出しの文言からして、他にも言いたいことがあったのではないかと推察するが、もし広報のことだけだというのであれば、項目名は変更しても良いのではないか。

【事務局】 既存の活動の魅力を高め盛り上げることで、より多くの人に興味を持ってもらい、巻き込んでいくことも大切ではないか、求心力を高めていく

ことも重要ではないかという意見が委員から出ていた。その意見を受けて、この項目を立てた。ご指摘の通り本文からそこが読み取れなくなってしまっているの、ここの文章については改めて検討したい。

【委員】ここで書かれていること自体に対しては特に疑問はない。見出しと本文が若干あっていないように感じるだけ。見出しの「支援」という文言がはたして適切か、疑問に思った。

【議長】ここについては、次回会議にて引き続き検討したい。他にご意見はあるか。

【委員】「重要」という単語がかなり多く使われているように感じる。特に「② オープンな雰囲気づくり」では、1行に「重要」という単語が2回出てくる。「重要」であると主張したい部分ではあると思うが、この提言書全体の文章の雰囲気と合っていないように感じる。

【事務局】修正したい。

【議長】では「5 具体的な取組の提案」について確認したい。委員のみなさんからいただいた事例について、「① 情報を届ける仕組み」と「② 参加しやすい仕組み」の2つの項目立てで整理した。

【委員】10ページの一番下の文章「これからはやはり必要とされるでしょう」について、「やはり」はいらないのではないか。

【事務局】修正する。

【議長】「4 『様々な世代を包む、ゆるやかな関係づくり』」でもご指摘があったが、ここでも「重要」や「必要」という単語が多く出てくるので、その点についても修正を加えたい。

【委員】「事例4」について、上から2行目「私たちの活動は」から「食べるのに困っている」までは不要と考える。この事例を出したのは私だが、実際に活動していて見えてくるのは、食べるのに困っているということではなくて、一人で寂しい子どもや、一人でご飯を食べているお年寄りの方。そういった方達にとっても喜んでもらっている。なので、この文章については削除してもらいたい。また、上から3行目「子どもたちや世帯を支えていきたい」という文について、「子どもたちや世帯を、身近な地域で支えていきたい」と変更したい。様々な状況があるし、なんの問題もない子も参加しているとは思いますが、いろんな人が集まってご飯を食べるという活動になっている。またもう1点追加したい。今いる子どもを巻き込むということももちろんあるが、何年か活動を続けていると、小学生だった子どもが高校生になっていたりする。活動においては大きな戦力になる。活動に参加していた子どもたちが大きくなってからも自然と参加する、そういうサイクルにしようとしているので、その点も盛り込めないか。活動に参加していた子どもたちが大きくなって、引き続き参加すると言っても立場が変わってくる。世代はこえていないかもしれないが、活動がつながっていくイメージにつながるのではないか。高校生であれば大人とほぼ同じ働きができるし、中学生であっても小学生と一緒に遊ぶことができるし、小学生であっても下の学年の子の相手ができる。子どもが参加していることで、その子が大きくなったときに、運営側として参加してもらおうサイクルを自然と築くことができる。

- 【事務局】 修正したい。
- 【議長】 他に何かご意見はあるか。
- 【事務局】 委員のみなさんから出していただいた事例について、すべてを提言書の中に入れられたわけではない。この例はここに入れられるのではないか、等、ご意見をいただければ。
- 【議長】 2つの項目立てとしたことについては、異論はないか。ないようであれば、この項目立てを基本として、さらに追加できそうな事例があれば事務局までご連絡いただきたい。「6 おわりに」については、各委員の感想なので、もし修正等あればこちらも事務局までご連絡をいただきたい。今日は全体を通して委員に確認いただき、幾つか修正点が出た。事務局と相談しながら、次回の会議で修正したものをお示ししたい。なお、次回の会議が第33期最後の会議となる。最後まで引き続きご協力をお願いしたい。

#### 4 その他

##### 次回会議日程

令和5年度第2回会議

日程：令和5年5月15日（月）午後7時～

場所：中央図書館 視聴覚ホール